

2023 年 2 月 5 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒19 番（旧 192 番）（HT 姉）

『妙なる愛かな』

聖書⇒詩編 73:25~36 節（新共同訳）（MM 姉）

『地上であなたを愛していなければ／天で誰がわたしを助けてくれようか。

わたしの肉もわたしの心も朽ちるであろうが／神はとこしえにわたしの心の岩／わたしに与えられた分。』

聖書⇒詩編 73:25~36 節（口語訳）

『わたしはあなたのほかに、だれを天にもち得よう。地にはあなたのほかに慕うものはない。

わが身とわが心とは衰える。しかし神はとこしえにわが心の力、わが嗣業である。』

礼拝讃美歌⇒53 番（旧 102 番）

『主よ君の他に』

*第 2 節は、上記口語訳と新共同訳からの引用

聖書⇒創世記 6:3、5~6、7~8 節（感話：MT 兄）

『主は言われた。「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。」こうして、人の一生は百二十年となった。

主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」しかし、ノアは主の好意を得た。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21:3~4 節

『そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。』

礼拝讃美歌⇒120 番（旧 199 番）（KH 兄）

『丘の上に立てる十字架』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節（KH 兄）

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

（式）

礼拝讃美歌⇒155 番（旧 208 番）

『神の小羊は』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 8:40~42、49~50 節（KH 兄）

『イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。人々は皆、イエスを待っていたからである。そこへ、ヤイロという人が来た。この人は会堂長であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来てくださるようにと願った。十二歳ぐらいの一人娘がいたが、死にかけていたのである。イエスがそこに行かれる途中、群衆が周りに押し寄せて来た。

イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません。」イエスは、これを聞いて会堂長に言われた。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 11:1 節

『信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。』

聖書⇒マタイによる福音書 9:18~19 節

『イエスがこのようなことを話しておられると、ある指導者がそばに来て、ひれ伏して言った。「わたしの娘がたったいま死にました。でも、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう。」

そこで、イエスは立ち上がり、彼について行かれた。弟子たちも一緒だった。』

聖書⇒詩編 23:4 節 (TM 兄)

『死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15:12 節

『わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。』

聖書⇒申命記 31:6 節

『強く、また雄々しくあれ。恐れてはならない。彼らのゆえにうろたえてはならない。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない。』

礼拝讃美歌⇒454 番 (KH 兄)

『十字架にかかりたる』

《建徳要旨》